

# 金 融 市 場 動 向

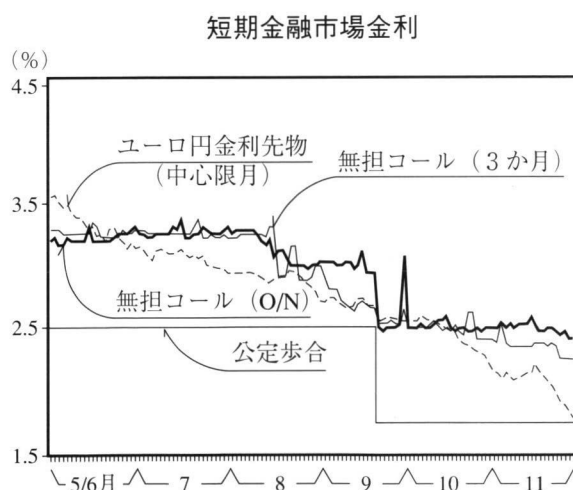
— 平成 5 年 11 月 —

(平成 5 年 12 月 13 日)

## 1. 短期金融市場

11月中の無担コールのオーバーナイト・レートとターム物レート、およびユーロ円金利先物（金利ベース）はともに月央以降低下した。

コール・プロパー手形市場資金平均残高は42兆5,629億円と前月（44兆4,479億円）を下回った。



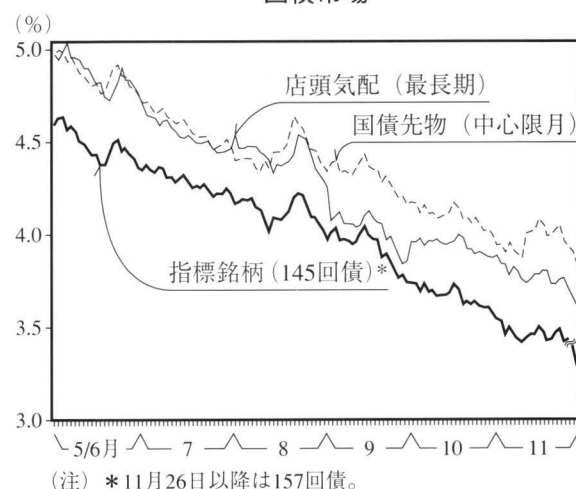
## 2. 資本市場

11月の国債利回り（指標銘柄、26日に145回債から157回債に移行）は、株式市況の低迷や短期金利の低下等から低下し、3.285%と1987年6月19日（3.170%）以来の水準で越月した（前月末3.575%。なお、国債先物中心限月<11日に5年12月限から6年3月限に交替>は3.828%<前月末3.988%>）。

国債の出来高をみると、現物（店頭取引）

は前月とほぼ同水準であった一方、先物は前月を上回った。

既発債市場利回り  
— 国債市場 —



株式市況（日経平均株価）は、企業業績に対する不透明観等を背景に、月中を通じて低下し、29日に16,078円と年初来最安値となった後、16,406円（前月末比△3,296円）で越月した。

また、株式出来高（東証第一部月中1営業日平均）は2.99億株と前月（2.67億株）を上回った。

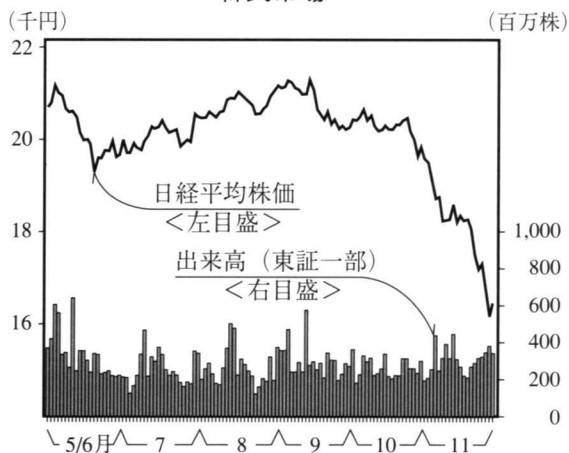
起債動向をみると、長期国債（12月債、10年物<価格競争入札分>）は、クーポン・レートが前月債比0.3%引き下げられて既往最低となったものの、金利低下観測等から、過熱気味の入札となった（11月30日入札分：募入

平均利回り3.469%、応募倍率5.47倍)。また、短期国債についても、概ね順調な入札結果となった(11月5日入札分<6か月物>は募入平均利回り1.990%、応募倍率1.92倍、11月17日入札分<3か月物>は募入平均利回り2.267%、応募倍率2.08倍)。

国内公募普通社債の発行は前月を上回った(10月1,650億円→11月2,660億円)。

国内エクイティ市場での発行(11月払込み分、増資を除く)は前月を大幅に上回った(10月445億円→11月1,790億円)。

### 株式市場

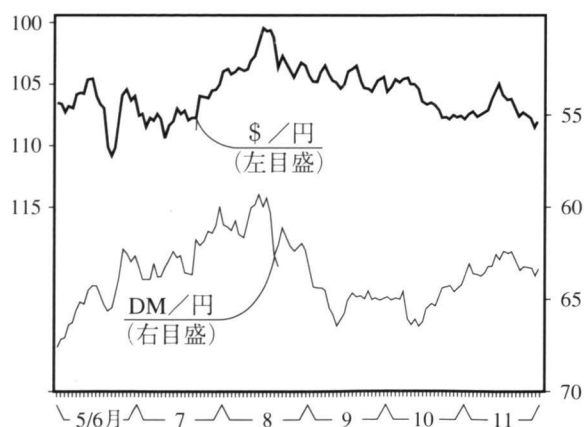


### 3. 外国為替市場

11月の円の対米ドル直物相場(終値)は、月央に若干上昇する局面もみられたものの、日米間の景気局面の違い等を背景にやや軟調裡に推移し、108.82円で越月した(前月末108.23円)。また、円の対マルク相場(ニューヨーク市場、終値)も、月中を通じて63円を挟んだ小動きな展開となり、63.59円で越月した(前月末64.39円)。

なお、東京外国為替市場の出来高(円対米ドル、直物および先物・スワップ計、1営業日平均)は164.3億ドルと、前月(147.9億ドル)を上回った。

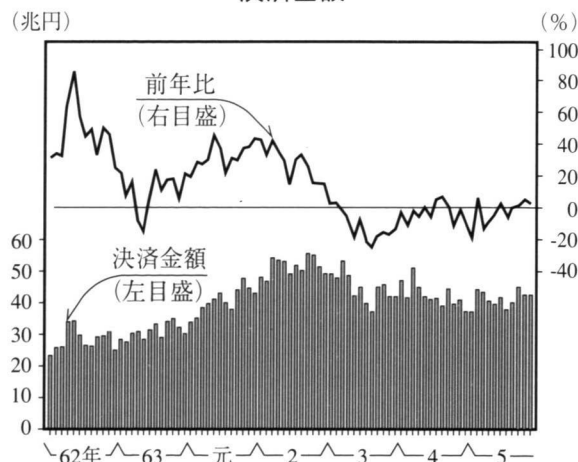
### 外国為替市場



### 4. 決 済

11月の資金決済の金額(1営業日平均)をみると、全銀システム取扱高(前年比+4.6%)、外為円決済交換高(同+4.4%)、日本銀行当座預金受払額(同+5.7%)はそれぞれ前年同月を上回ったが、手形交換高(東京、同△7.6%)は前年同月を下回った。また、国債の決済金額(1営業日平均)は移転登録(同+27.0%)および振込口座振替(同+18.0%)とも前年同月を上回った。

### 決済金額



(注) 1. 1営業日平均。

2. 手形交換高(東京)、全銀システム取扱高、外為円決済交換高の合計額。

## 5. 資金需給、金融調節

11月の資金需給をみると、銀行券要因が298億円の不足（前年同月5,179億円の不足）となった一方、財政等要因は、源泉所得税を中心とする税揚げがみられたものの、第4回普通交付税交付金の支払いが多額に上ったほか、公共事業の支払い等もかさんだため、9,745億円の余剰（同1兆3,007億円の余剰）となり、全体でも9,447億円の余剰（同7,828億円の余剰）となった。

こうした状況下、日本銀行は買入手形の期日落ちを進めることなどにより資金を吸収した。

12月の資金需給（国債発行織り込み前）をうかがうと、銀行券要因については、官民ボーナス支払いや年末資金需要等から、月中6兆2,000億円程度の大幅不足（前年同月5兆1,733億円の不足）となる見通しである一方、財政等要因は国債元利払いを中心に5兆4,600億円程度の余剰（同1兆7,677億円の余剰）となる見通しであり、全体では7,400億円程度の資金不足（同3兆4,056億円の不足）と予想される。

## 6. マネーサプライ、銀行券、預金・貸出

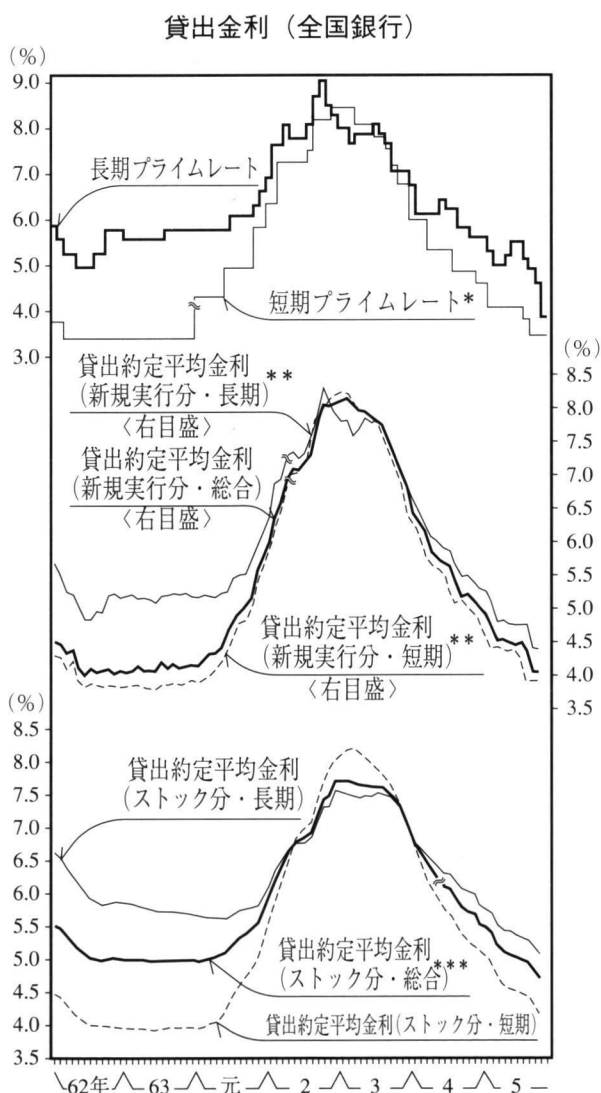
10月のマネーサプライをみると、 $M_2 + CD$ 平残前年比伸び率は+1.9%と前月比横ばいとなった。通貨種類別にみると、準通貨の伸び率が低下した一方、預金通貨、CDの伸び率は上昇した。また、広義流動性の平残前年比伸び率は+3.1%と前月に比べ0.1%ポイント低下した。

11月の銀行券平残前年比伸び率は+3.9%となり、前月比低下した。

11月中の金融機関の預金・貸出動向をみると、預金平残（実質預金+CD、都銀、地銀、地銀Ⅱ）前年比は+1.5%と前月とほぼ同じ伸び率となった。また、貸出平残（都銀、長信、信託、地銀、地銀Ⅱ）前年比は+0.5%と既往最低となった。

## 7. 貸出・預金金利

10月中の貸出約定平均金利（全国銀行）をみると、新規実行分については、短期が小幅



(注) \* 元年1月以降は都市銀行のなかで最も多くの数の銀行が採用した金利。

\*\* 2年4月以降は地方銀行Ⅱを含む。

\*\*\* 4年4月以降は当座貸越を含む。

ながら上昇（前月比+0.022%）した一方、長期は小幅低下し（同△0.018%）、総合ではほぼ横ばいでの推移となった（同+0.003%、9月4.041%→10月4.044%）。

また、ストック分については、短期、長期、当座貸越ともに引き続き低下したことから（短期：前月比△0.136%、長期：同△0.106%、当座貸越：同△0.159%）、総合でも前月比

△0.119%低下し、4か月連続で既往ボトムを更新した（総合：9月4.829%→10月4.710%）。

この間、10月の定期預金金利（自由金利分、3か月以上6か月未満の全銀受入金利平均）は前月比低下した（9月2.411%→10月2.250%）。

（調査統計局）